

みやけい交通安全ニュース

発行：宮崎県警察本部交通企画課 R7-No.8(2025.5.30)



梅雨期の交通事故防止

雨の日の運転は、晴れた日の運転と異なり、

- ・ ブレーキが効きにくく、停止距離が長くなる
 - ・ ハンドルやブレーキの誤った操作でスリップしやすい
 - ・ 車外との温度差でフロントガラスが曇りやすく視界が悪くなる
- などを踏まえて運転しなければなりません。



雨天時に起こりやすい現象

ハイドロプレーニング現象

高速走行した際、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが路面から浮いた状態になり、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象

速度を落として運転することと、タイヤの溝や空気圧を適切な状態を維持することで発生を防ぐことができますが、万が一発生した場合は、ハンドルを切らず、ブレーキを踏まずにタイヤのグリップが回復するのを待ちましょう。



グレア（蒸発）現象

夜間、自分の車と対向車のヘッドライトに光が交錯した時にその間にいる歩行者や自転車が見えなくなる現象

雨の日は特にヘッドライトの光が乱反射して周囲の状況が見えづらくなりますので、スピードを落としこまめなライトの切替えを行い、「かもしれない運転」を徹底しましょう。



雨天時の交通事故防止のポイント

- タイヤ、ワイパー、エアコン等の車両の点検・整備をする。
- ワイパーやヘッドライトを活用し、良好な視界を保つ。
- 速度を落として、他の車と十分な車間距離をとって運転する。
- カーブ付近や道路標示・金属製のマンホールの蓋などが設置された場所など滑りやすい場所では急ハンドル・急ブレーキをしない。
- 歩行者等に注意して、泥はね運転をしない。



※ 豪雨により道路が冠水している時は、アンダーパスなど周辺の地面より低くなっている箇所は車両が水没する危険性がありますので、絶対に通行しないでください。



毎月10日は「県民交通安全の日」

地域の交通事故情勢に応じた活動を行う日です。地域や職場、学校、家庭等で交通安全活動に取り組みましょう。